

令和6年度 事業報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

I 全体事業概要

世界的な気温上昇が続く中、令和6年度も気温が高い状況が続き、日本の年平均気温偏差は1.64℃となり、観測史上最も高い値となりました。この地域でも、平均気温及び最高気温について過去最高を記録し、降水量においても過去20年間で令和3年に次ぐ多い年となりました。常態化した酷暑は、農業生産の低下に大きな影響が出ています。

農地利用集積事業では、農地中間管理事業による新規の利用権設定や農地利用集積円滑化事業による契約期間満了等に伴う農地中間管理事業への移行を行ったことにより、農地利用集積円滑化事業での保有面積は約9ha、農地中間管理事業での機構保有面積は約350haとなりました。耕作者の高齢化が進む中、担い手に農地管理が集中する傾向が続いています。地域計画に基づき地域ごとの目標を定め、農地の集約化を進めつつ、地域と一体となった担い手への支援が必要になってきます。

農作業受委託事業では、農業機械が更新できない小規模農家や、堆肥散布希望農家からの受託業務を継続しました。農地を賃貸借に移行する農家が増加していることで、受託面積は減少傾向であり、担い手と連携して事業を進めます。

担い手育成研修事業では、農業次世代人材育成支援事業によるトマト専攻1名が研修を行い、4月に就農しました。トマト農家での研修とともに、毎週木曜日に行う公社研修では、農場での実践研修のほか、自立経営に向けた座学での講義や、財務諸表等の研修を行いました。

新たな担い手育成支援においては、担い手協議会の就農林相談会を始め、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会、現地説明会等を開催しました。雇用環境が好転している影響で、相談者が減少していますが、研修候補者1名について、就農を前提とした検討を行っています。産直出荷農家としての期待を担う農業塾は、11期生9名の塾生が8月に1年間の課程を修了し、9月から新たに第12期生6名を受け入れて研修を実施しています。

種苗等生産事業の自然薯むかご生産については、愛知県園芸振興基金から委託を受け、受託数量100,000粒以上を供給しました。

菌床ブロック生産事業では、受注数が増加していますが、燃油電気料等の高騰により製造コストが大幅に上がっています。コスト削減に努めつつ、収支均衡になるよう利用料の検証を行っています。

収益事業の菌床しいたけ栽培については、夏季の高温障害が発生し、収穫量の低下を招きました。主力を高温に強い品種に変更し、温暖化に対応できる栽培の検証を行ってまいります。

II 事業内容

1. 農地利用集積円滑化事業

- ① 農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期等を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：ha

内 訳	地目	令和6年度保有面積	令和5年度保有面積
賃貸借	田	5.87	13.69
	畑	1.12	2.81
	その他	1.37	1.37
	小計	8.36	17.87
使用貸借	田	0.08	2.52
	畑	0.25	0.25
	その他	0	0
	小計	0.33	2.77
合 計		8.69	20.64

- ② 所有者代理事業による売買代理契約。

面積単位：㎡

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	20	28,677	20	28,677	0	—
畑	0	—	0	—	0	—
その他	0	—	0	—	0	—
農地合計	20	28,677	20	28,667	0	—

- ・作手黒瀬 水田 (2筆) 1,442 ㎡ 216,000 円 (全体で)
- ・作手黒瀬 水田 (10筆) 15,927 ㎡ 1,640,000 円 (全体で)
- ・作手黒瀬 水田 (1筆) 457 ㎡ 77,000 円 (全体で)
- ・杉山 水田 (1筆) 788 ㎡ 150,000 円 (全体で)
- ・作手鴨ヶ谷 水田 (2筆) 3,970 ㎡
- 作手清岳 水田 (3筆) 4,178 ㎡ 2,050,000 円 (全体で) ※5筆
- ・作手清岳 水田 (1筆) 1,915 ㎡ 266,000 円 (全体で)

2. 農地中間管理機構業務受託事業

- ① 新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等について、農地中間管理事業への移行を行った。特に本年度は西田原地区において、機構関連事業による圃場整備のために担い手へ約16年間の貸付による権利設定を行った。また、近年は地権者の相続案件が増えており、遠隔地等の市外在住も増加傾向にある。

単位：ha

内 訳	地目	令和6年度末設定面積 (機構保有面積)	令和5年度末設定面積 (機構保有面積)
賃貸借	田	221.72	211.89
	畑	4.88	2.66
	小計	226.60	214.55
使用貸借	田	117.08	112.84
	畑	6.59	4.21
	小計	123.67	117.05
合 計		350.27	331.60

3. 地域農業者の支援に関する事業

(1) 農作業受委託事業

耕作者の高齢化により、農地の貸借の増加と耕作放棄により農作業委託が減少傾向にある。

作業受託内容	R 6 年度実績	R 5 年度実績	公社	委託
耕起	1.7ha	1.7ha	○	○
代掻き	1.3ha	1.6ha	○	○
田植え	3.1ha	3.5ha	○	○
育苗	1,387 枚	2,003 枚		○
畝立て	0.5ha	0.6ha	○	
刈り取り	9.9ha	10.5ha	○	○
採種刈り取り	8.0ha	13.6ha	○	○
乾燥調整	1,569 俵	1,655 俵		○
堆肥散布	13.0ha	8.7ha	○	

(2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

- ① 雇用環境が好転している影響で相談者は減少傾向にある。46 組の相談を受け、いちご専攻の候補者 1 名が就農に向け検討を行っている。

※ 参考データ

イベント名称	会場名	開催日	面談人数	備考
新農業人フェア	大阪	R6.10.27	6	
マイビ`就農 FEST	名古屋	R6.11.23	8	
就農林相談会	新城	R7.1.12	2	
新城市アグリチャレンジ	新城 岡崎 新城	R6.5.12	8	
		R6.7.7	4	
		R6.11.24	3	
現地説明会（トマト・ホウレンソウ）	作手	R6.6.2	1	現地
		R6.9.29	1	現地
現地説明会（イチゴ）	新城	R6.11.29	5	現地
		R7.1.11	8	現地
合 計			46	

- ② 農業次世代人材育成支援事業によるトマト就農専攻研修生を新たに 1 名受け入れた。内訳は第 11 期生 1 名が 3 月に終了し、令和 7 年 4 月から就農した。研修期間中は、就農後の経営力を高めるための研修に努めた。
- ③ いちご専攻希望者について、就農場所・補助金等について関係機関と検討中である。
- ④ 農業塾では第 11 期生 9 名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和 6 年 9 月、1 年間の農業実習を 9 名が修了した。同年 9 月からは、引き続き第 12 期生 6 名を受入れ、令和 7 年 9 月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。
- ⑤ 農業インターンシップについては、実績なし。

4. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

(1) 自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理を行った。病虫害被害なく梅雨明け後の乾燥時期に灌水を増やし、受託数量 100,000 粒以上に対し、102,130 粒となった。

(2) 自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、生産者の高齢化により受注本数が減少しているが、予約本数 3,990 本を完納することができた。(一本芋規格 30g～100g)

(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

令和 6 年度は一部増床があり、4 品種 190,429 菌床の製造を行った。

品目	R6 年度実績	R5 年度実績
(1) 愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	102,130 粒	72,900 粒
(2) 自然薯一本種芋受注栽培 (*30g～100g)	3,990 本	3,890 本
(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	190,429 菌床	175,872 菌床

5. 都市農村交流促進事業

(1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから近隣遊休農地にて約 6,000 本を作付けした。リピーターも多く、高糖度のスイートコーンとして知名度も上がり、体験は約 600 名となった。

6. 農林産物生産事業

(1) 自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、定植時期に降雨が多く自然薯の種苗関連事業を優先したため作付けすることができませんでした。

総収穫量 0k g (前年 212k g)

(2) しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給菌床ブロックの検証栽培として、前年より 2,180 菌床少ない 34,973 菌床(夏菌床 14,835 菌床、冬菌床 20,138 菌床)の栽培実証を行った。栽培菌床数の減少と夏季の高温の影響で昨年より菌床数が下回る出荷量となった。

総出荷量 (パッケージセンター分のみ) 24,805k g (前年 28,643k g)

7. その他公社の目的達成に必要な事業

(1) 受け手のない農地の有効活用

ポップコーン種の栽培 3a

サツマイモの栽培 2a

(2) 冬作キャベツの試作